

I-4. 新たな公共交通事例整理

(1) コミュニティバスによる一元化（当別町地域公共交通活性化協議会）

当別町では、民間路線バスの撤退に併せ、町営バスを運行していたものの、町内における様々な送迎バスに着目し、これらの運行費用を一元化することにより、共通で利用できる当別版コミュニティバスを運行している。

当運行については、平成 22 年において国土交通大臣賞を授与しつつも、運行地域が郊外部ということもあり、運行赤字の解消に課題を抱えている状況となっている。

図 実証運行体制

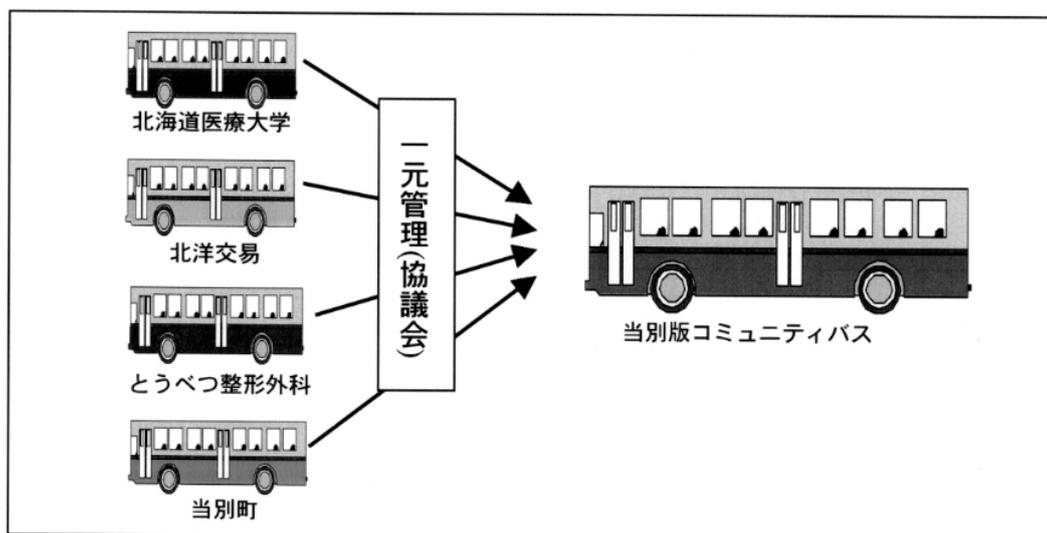


図 実証運行における運行コスト・収入対比

	金額	運行経費における割合	1kmあたりの金額	1人あたりの金額	備考
運行コスト	51,047,908円	—	192.8円	377.0円	
運行収入	8,404,290円	16.5%	31.7円	62.1円	
参加事業者負担金 収入	当別町	10,645,020円	20.9%	40.2円	78.6円
	北海道医療大学	12,416,418円	24.3%	46.9円	91.7円
	北洋交易	7,806,625円	15.3%	29.5円	57.7円
	とうべつ整形外科	1,775,555円	3.5%	6.7円	13.1円
	小計	32,643,618円	63.9%	123.3円	241.1円
国庫補助金	10,000,000円	19.6%	37.8円	73.9円	
合計	51,047,908円	100.0%	192.8円	377.0円	

出典：当別町コミュニティバス実証運行報告書

(2) 循環バス (美唄市地域公共交通活性化協議会)

美唄市では、概ね市街地を中心として市民バス東線(市営バス)が運行しているものの、18系統数もが運行し、運行費用の 55 %が赤字(車両費を除く)で、かつ、利用者からは増便を求められている状況にある。

そこで、平成 22 年度に地域公共交通再生事業の地域公共交通連携計画を作成し、平成 23 年度後期から循環バスによる運行コスト縮減と、実質的な利用可能便数を倍増させて運行しているところである。

ここで、運行コストの縮減は、運行車両台数を 3 台から 2 台に削減することによる委託費の縮小で、利用可能便数は、バス路線末端部において多少遠回りにはなるものの、利用できる便数が倍増することとしている。

なお、美唄市においては、郊外部の概ね全域では、スクールバス 13 路線の内、11 路線で有償による一般利用が可能となっている。

図 市民バス東線循環バス路線



(3) フレックスバス：セミデマンド（帯広市）

帯広市では、国の事業である公共交通活性化総合プログラム事業を活用して、市街地のバス路線について、起終点のみを定めて、利用者に応じて運行路線をフレキシブル（柔軟）に変更するフレックスバスを実証運行として行っている。結果、乗合タクシーなどのフルデマンド方式とは違い、デマンド運行でも様々な形態があることを規定できたことと、また、ここで作成したプログラムは、市内で実施しているデマンドシステムとして活用していること、さらに、既存路線の一部を改善できたことが成果となっている。

●フレックスバスの運行イメージ

＊ 起点と終点の間は、利用のある停留所を結んで運行



●フレックスバスとは

- ・従来の「乗合バス」は、定時定路線で運行
- ・「フレックスバス」は、路線バスの定時制を一定程度維持しつつ、利用者の需要に応じて各便ごとにフレキシブル（柔軟）に運行経路を設定して、起終点間を走るバス
- ・バスへの乗降は、運行地域内の概ね 150 ～ 200m 間隔で設置されているバス停留所（ミーティングポイント：MT）に限定（バスは、起点から終点までの間、利用のあるMTを結んで運行）
- ・利用者は利用する便が起点を出発する時刻の一定時間前までに予約が必要（予約締切後、経路を設定し、利用者は最寄MTへの到達予定時刻をコールバック）

出典：地域の交通問題を皆さんと共に解決します。～公共交通活性化プログラム～
2006年 国土交通省北海道運輸局企画観光部

(5) 市民自治会への委託による運行

富良野市東山地区では、全域を富良野バスが運行していたものの、採算面から東山地区入口から郊外までの間を短縮し、入口までの間を乗合タクシーで代替した。しかし、地区入口から中心部までのバス路線と乗合タクシー輸送後の空車タクシーとが併行することに疑問を持ち、当該地区内を市町村有償運送による地域コミュニティカーにより輸送を行っている。地域コミュニティカーの運行は、町内会へ委託して運行を行っている。

○富良野市東山地域コミュニティカー運行条例（抜粋）平成 21 年 6 月 19 日条例第 19 号
（目的）

第 1 条 この条例は、富良野市東山地域コミュニティカーの運行に関し必要な事項を定め、富良野市東山地域の住民の交通手段を確保し、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この条例において、富良野市東山地域コミュニティカー（以下「コミュニティカー」という。）とは、道路運送法（昭和 26 年法律第 183 号）第 78 条第 2 号の規定に基づく自家用有償旅客運送に用いる車両をいう。

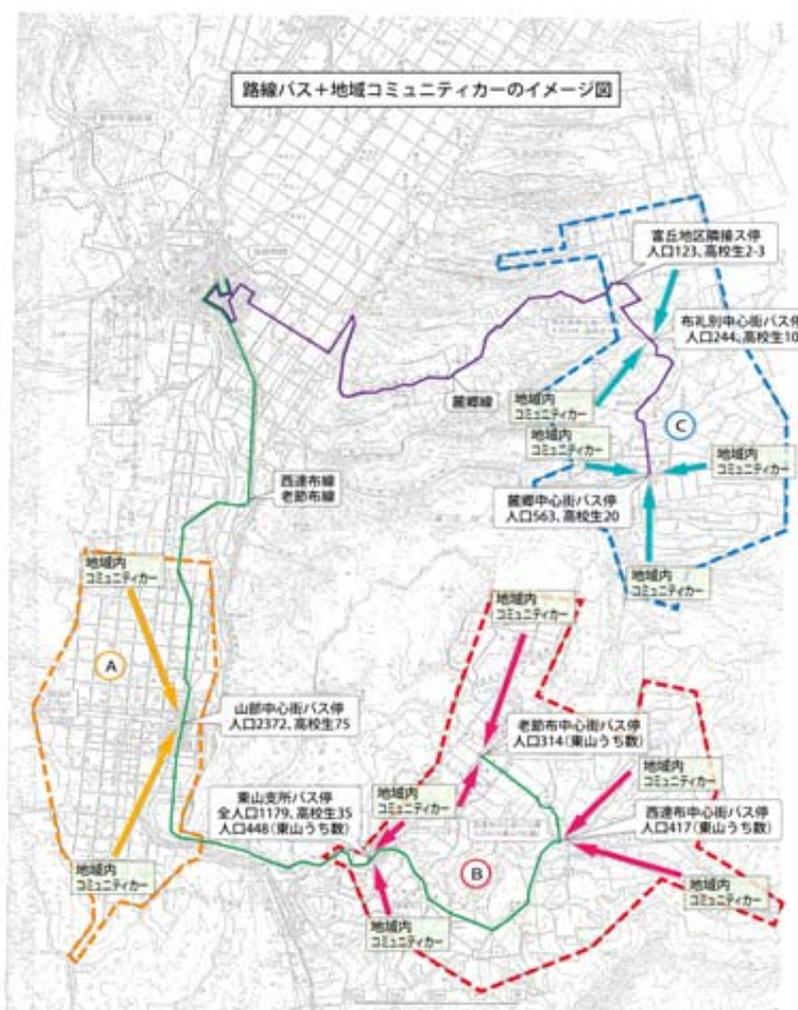
（運行区域等）

第 3 条 コミュニティカーの運行区域は、富良野市字東山、字西達布、字老節布及び字平沢とし、路線、運行日、運行回数及び運行時間については、規則で定める。

（運賃）

第 4 条 コミュニティカーを利用する者の運賃は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 小学校就学前の乳幼児 無料
- (2) 前号以外の 18 歳未満の者及び高等学校通学者 50 円
- (3) 前 2 号以外の者 100 円



(6) モビリティ・マネジメント

モビリティ・マネジメント (MM) とは、過度な自動車利用のライフ・スタイルから「かしこく」クルマと公共交通機関や自転車などを利用するライフ・スタイルに変化する方向に、自発的に変更することを期待するもので、コミュニケーションを中心とした交通施策のことをいう。具体的には、トラベル・フィードバック・プログラム (TFP) による「簡単なアンケート調査」を実施し、ひとり一人に、クルマ以外の通勤が可能かを振り返ってもらう。この方法により、約2割の自動車利用が減少し、その一部が公共交通へ転換して

● 動機づけ冊子の例

山口県宇部市モビリティマネジメント 事業主体：スマート通勤宇部市民会議

クルマと環境

ちょっとクルマを使うだけで、あなたが排出するCO2 (二酸化炭素・地球温暖化ガス) は **何倍にも** なってしまいます。

1時間で排出できるCO2の量

1時間車を代り移動する	588 kg
洗車もごまかに (60分) 済す	32 kg
シャワーを60分浴らす	2 kg
ドライヤーを60分浴らす	13 kg
掃除機の少ない回数	44 kg

1日1回クルマでも控える

出典：「環境と交通行動に関する意識調査」(財団法人環境研究センター) 2007

クルマと維持費

実は、クルマの維持費は、結構かさみます。ふつうに使えば、場合によっては、**1日に2000円以上** もかかるかもしれません。

クルマには、保険、税金、駐車場が必要で、例えば、2000ccのクルマを持っているだけで、**1日1700円**。さらにガソリン、高速道路、駐車場などをめると一生涯節約して乗っても、**1日2000円** かかってしまいます。

出典：国土交通省研究

クルマと健康・ダイエット

クルマではずっと座っていられます。だからこそ、便利なのですが、だからこそ **運動不足** になるかもしれません。

【移動に伴う消費カロリー】

公共交通	220 kcal
クルマ	102 kcal

例えば、1時間クルマで移動する代わりにバスや電車を使えば、それだけで消費カロリーは **2倍以上** になります。

出典：第6次国勢調査(日本人の身体活動量)

クルマと交通安全

クルマの「重大事故」は **減らない** のでしょうか？ 計算してみると・・・ **160人に1人が死亡事故** を起こすようです。

「人身事故」は、年間約89万件 (H18年) 起こっています。交通事故で亡くなる方は、年間約6千人 (H18年) です。クルマの利用率 (約5千万人) から計算すると例えば、50年クルマに乗り続けると・・・ **5人に3人のドライバーが「事故でケガをさせて」** しまいます。さらに **160人に1人が死亡事故** を起こしてしまうことになります。

出典：警察庁

● バス路線マップの例 京都府宇治市のモビリティマネジメント宇治職場モビリティ・マネジメント (MM) 推進会議

